

「恋人の聖地」に認定されている、帯広市内の愛国・幸福両駅をモチーフにした恋愛小説が、文芸雑誌「小説新潮」（新潮社）の12月号に掲載される。作者は、今年「楽園のカンヴァス」で山本周五郎賞を受賞した原田マハさん。市観光課は「両駅は聖地でもあり歴史もある。小説を通じ魅力がプラスされ、新たなファンが来てくれれば」と期待している。

毎月の巻頭特集企画として、今回は「聖地」に着目。

愛国・幸福駅モチーフに

国内の7作家が、聖地にまつわる恋愛小説を書き下ろす。

原田さんの他には千早茜さんが「八千穂高原」（長野県）、柴門ふみさんが「名古屋テレビ塔」（愛知県）を題材にする。

小説新潮12月号

原田さんは執筆に当たり8月27日に両駅を訪れた。同行した市によると、駅舎内に貼られている名刺やメッセージ、恋人の写真を眺めたり、

プラットホームや列車内も見たいという。

新潮社によると、原稿が書き上がっていないため、内容やタイトルは未定。12月号は11月22日に発売予定。

原田マハさん書き下ろし

「恋人の聖地」は静岡県のNPO「地域活性化支援センター」が、少子高齢化対策として、プロポーズにふさわしい場所を選定し、地域の新たな魅力づくりを図っている。今年4月現在、全国で111カ所が選ばれ、両駅は2008年認定。（伊藤亮太）